

## 中学校社会科（公民）学習指導案

指導教諭

指導者

1. 対象 第3学年A組
2. 日時 令和4年6月10日3時間目
3. 場所 第3学年A組教室
4. 単元名「私たちの暮らしと経済 消費生活と経済活動」
5. 単元の目標
  - ・生徒にとって身近な消費生活が経済活動の一部であることを自覚し、経済活動の意義を理解できる。(知識・技能)
  - ・身近な経済活動と社会のしくみの結びつきについて理解できる。(知識・技能)
  - ・授業で取り扱った内容から課題を思考・判断し、根拠を元に自分の意見や考えを表現することができる。(思考・判断・表現)
6. 単元について
  - a. 教材観

経済とは生産・流通・消費の一連のつながりであり、私たちが行っている消費生活は経済活動そのものである。経済には家計・政府・企業の三つの主体があり、毎日の消費生活は家庭の経済活動である家計によって成り立っている。家計においては消費するだけでなく、所得や貯蓄も行っている。また、経済活動においては現金以外にも支払い手段があり、特にクレジットカードは多くの社会人が持っている。クレジットカードは危険性もあるため、その仕組みを理解し、クレジットカードのメリットと注意点を把握したうえで、適切な選択を行うことが大切である。

また、消費者の安全と権利を守るための法や制度もある。製造物責任法は製造物の欠陥により人の生命、身体または財産に係る被害が生じた場合における製造業者等の損害賠償の責任について無過失責任で定めている。また、消費者契約法では①不実告知、②断定的判断、③不利益事実の不告知、④不退去、⑤監禁、その他一方的に消費者が不利になる契約条項は、無効にすることができるよう定められている。切符を買って電車に乗る、ラーメン屋で食事をするといった日常の何気ないことでも契約である。契約をすることで私たちには責任（債務・債権）が発生するため、悪徳商法などに注意して、その商品が自分にとって本当に必要かどうかをよく考え、安易な売買契約を結ばないようにしなければならない。

私たちの経済活動の中で流通は密接に関わっており、消費者と生産者をつなぐ役割を担っている。近年、インターネットの普及や新たな仕組みの登場によって流通のあり方は大きく変わり、私たちの生活を便利にする一方で、環境や地域経済等の在り方にも影響を及ぼしている。便利さだけにとらわれず、流通の果たすべき役割について、これまでに学んだ経済活動と結びつけて注意深く探求していく必要がある。

## b. 生徒観

社会科の授業の中で教員の発問に対して考える生徒は4割ほどで、考えようとする生徒は2割ほどである。一方で残りの4割のうち促さないと考えない生徒は3割、全く考えない生徒は1割程度である。また、選択肢のある教員の発問に対していつも挙手する生徒は4割で、内容によって挙手する生徒は8割程度まで増えることもある。教員から指名したらすぐに自分の意見を答える生徒は6割、周りの生徒に相談してから発言する生徒は3割、全然話さないもしくは発問に対して考えることなくわからないと答える生徒は1割程度である。教師の発問に対して周りに相談してから答える生徒が多い要因としては、教師の発問がわかりにくい点も挙げられるが、集中力がときどき途切れてしまうことも挙げられる。ノートの取り方に関して板書だけでなく教員の発言も積極的にノートをとる生徒は5割で、板書したことで教師の発言でメモを促した部分のみノートをとる生徒が3割、板書したことの一部だけノートをとる生徒は1割、全くノートをとらない生徒が1割程度である。

知識理解については、経済分野の消費者として経済に関わっていることについて関心を持ち授業以前から学習内容について知識のある生徒は1割ほど、小学校や家庭科で学んだ内容であればなんとなくという程度で記憶している生徒は7割ほど、残りの2割はあまり覚えていないという状況である。

ため、具体例を扱いやすく、比較的理解しやすい分野であると考えられる。

## c. 指導観

消費生活と経済活動について学習する上で、生徒自身が消費者として経済に関わっていることを自覚したうえで、生徒自身の生活において身近な行為には様々な背景や社会の仕組みが関わっていることに気付かせるため、生徒に身近な具体例を積極的に用いることを意識する。また、消費生活の分野では契約や支払い手段といった消費行動そのものや、消費者を保護する制度や流通の仕組みといった社会の仕組みに目を向けてしまいがちであるため、用語や内容の繋がりに欠けた授業展開に陥りやすい。そのため、それぞれの内容そのものに集中するだけでなく、単元を俯瞰的にみることで流れを大切に、消費者と仕組みの関係性を常に意識した上で指導する。

生徒には実際に自分たちが消費生活をする中で社会の仕組みと結びついていると実感できる部分はないか思い返してみるといったことで、より社会の仕組みと生活の関係性を感じながら理解を深めるように促す。さらに、自ら積極的に発言することが少ない生徒についても、生徒自身の生活ではどういった結びつきがあるのかといった、ただ知識を問うような発問ではなく、答えが一つではなく個人の意見を述べるような発問を行うことで少しでも多くの意見を発言しやすいよう工夫をする。自分の生活を切り口にそこからどうして授業の内容と結びつくのかを考えることができる発問を交えることで、私たちにとって身近な経済の楽しさを感じてもらいながら、考える力を養っていきたい。

## 7. 単元の指導計画

私たちの暮らしと経済 消費生活と経済活動

第1時 経済活動と家計の果たす役割

第2時 消費者の責任と消費者主権

第3時 消費者の権利と消費者の保護

第4時 流通の仕組みと消費者の暮らし（本時）

## 8. 本時の学習

### (1) 本時の目標

- ・私たちの暮らしが流通の仕組みとどのように関わっているのか理解できる。
- ・流通の発展と小売業の変化の関係性を理解できる。

(発展)流通の発展がもたらす課題や影響について、根拠を元に自分の意見や考えを表現することができる

### (2) 本時の展開

段階	学習内容	指導者の活動	生徒の活動 (予想される反応)	指導上の留意点	資料・教材 備考等
導入	・身近な製品の流通 コスト	・ポテトチップスの原 価をクイズ形式で予 想してもらう。	・選択肢(100円のポ テチで約30円・50円・ 70円・90円)ごとに挙手	・原価とは材料費 と工場で作る費用	カルビーのポテチ の原価率56% お店の値段(60g) コンビニ(141円) ドンキ(88円) 某スーパー(95円)
		【発問1】:ポテトチップスはどのようにしてこんなに高いんだろう？			
		・何にお金がかかって いるのだろうか？  ・製品の値段には流通 費や利益が含まれて いることを知る。	【予想回答】 ・流通費 ・人件費 ・家賃 ・利益	・ランダムで生徒 に当てる	

展開	・流通のしくみ	・第一時の経済を振り返る。「経済とは何の一連の繋がりがあっただろう?」	・消費者と生産者をつなぐものに流通業があることを再認識させる。	・流通は運送のイメージが強いが、それ以外にもあることに気付かせる		
	<b>【発問2】:流通ってなんだろう?生産と消費以外のものとは?</b>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済活動が消費、流通、生産の一連のつながりであることを復習し、生産と消費以外のものは何か発問する。</li> <li>・生徒を数人ランダムで指名して、発言してもらおう</li> <li>・商品の流通について説明する。</li> <li>・流通に関わる仕事について、具体例を交えつつ簡単に説明する。</li> </ul>	<b>【予想回答】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お店</li> <li>・運送</li> <li>・倉庫</li> <li>・ネット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店等の回答が出ない場合の補助発問「お店って流通ですか?」</li> <li>・「生産者と消費者をつなぐもの」へ言語化</li> <li>・卸売業者(問屋)、小売業者の説明→これらを合わせたものが商業</li> </ul>	・仲卸業者の役割(販売ロット、目利き)	
	・流通の合理化	<b>【発問3】:それぞれの小売業のメリットとデメリットはなんだろう?</b>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型スーパー、百貨店、コンビニ、オンライン、飲食チェーン店</li> <li>・合理化する前の流通の仕組みの説明</li> <li>・ポテトチップスと利益変化の説明(図を用いて)</li> <li>・直接仕入れの説明</li> <li>・こうやって見ると、流通革命=卸売業者を省くと考えがちだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班黒板に書いてもらう</li> <li>・導入のポテトチップスの話を取り上げ、発言を促して思い出してもらう</li> <li>・生徒に発問し、ランダムで当てて、発言を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフから安さと便利さが求められていることに気付く</li> <li>・卸売業者の利益を削ることでコストを下げることができる?</li> <li>・意見が出にくい場合の補助質問「卸売業者がなか</li> </ul>	→多くのメーカーに直接取引するとなると手続きが大	

		が、卸売業者も必要とされる理由		ったらどうなる？」	変、多くのトラックが必要になる
【発問 4】:物流、配送センターのメリットは何だろう？					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流センターと配送センターのしくみを説明したうえで発問する</li> <li>・消費者と生産者に着目するよう促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に発問し、ランダムで当てて、発言を促す</li> <li>【予想回答】</li> <li>・同チェーンの店舗に少数のトラックで多くものを運ぶことができる</li> <li>・共同で地域に配達することでコストを削減できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考える時間を与え、メモ欄に書いてもらう</li> <li>・補助発問</li> <li>「マクドナルドやサンマルクといったチェーン店の特徴は？」</li> <li>「各々の店舗で仕入れをしていたらどうなる？」</li> </ul>	→同じ値段、同じ品質、同じ味
【発問 5】:流通の発展によって生じた課題は何だろう？					
		・プリントに記載されたキーワードを説明し、さらに深い関係性を問う	・プリントのキーワードをもとに、具体的にどのような問題なのかを考える	・プリントのメモ欄に記載	
まとめ	・授業の振り返り	・変化してきた流通のメリットや課題、業種による違いを授業プリントに記入してもらう	・本時で学習したことを振り返って、今日の振り返り部分にまとめてもらう	・質問があれば直接してもらう	